



よしだつうしん

吉田通心

第134号
【2025年11月】

〒950-1475 新潟県新潟市南区戸頭1347-1 TEL:025-372-1138 FAX:025-372-1155

■■この吉田通心は私とご縁のあった方、ご縁をいただきたい方に差し上げている月一個人通信です■■

◆すべては「始まりの人」から◆

こんにちは。お世話になります。吉運堂の吉田竹史です。吉田通心第134号をお送りいたします。よろしくお願いいたします。

さて、私の大好きな野球。ワールドシリーズが終わり、応援の楽しみがないオフシーズンになりましたが、特に印象的だったのが、ドジャース対ブルージェイズのワールドシリーズ第3戦です。9回で決着がつかず、延長18回裏のサヨナラホームランでドジャースが勝利しました。試合時間は、なんと6時間39分もかかったそうです。

その6時間39分前、始球式に登場したのが、トルネード投法でおなじみの野茂英雄さんでした。かつて、野茂さんは近鉄バッファローズ退団後、渡米し、ドジャースの投手になりました。村上雅則さんがその昔、メジャーリーグに行っていますが、近代野球で日本人がメジャーへ渡る道を切り開いたのは、野茂さんであり、野茂さんがパイオニア（先駆者）と言われるゆえんです。

イチロー選手はアメリカの野球殿堂入りスピーチで「野茂さんがいたおかげで今の自分がある」と話しましたが、これは大谷選手もよく口にすることです。最初に一步を踏み出した人は尊敬に値する存在であり、メジャーリーグもそれを尊重し、始球式を依頼しているのだと思います。

最初に始めた人がいるから、道が開かれその後がある。これは会社でも同じです。どんな会社でも創業者がいるから今がある。私たち吉運堂も100周年を迎えましたが、100年前に創業者が一步を踏み出してくれたおかげで、吉運堂が始まりました。創業者がいなければ、今の吉運堂はないわけで、創業者というのは尊敬に値すると思っています。

また、私たちと関わりの深いお寺さんにしても、当社本社のある新潟県では浄土真宗が多い



のですが、元をたどれば親鸞さんがはじまりです。そのご命日を縁とする報恩講は、いまなお全体的なお寺で実施されており、最初に始めた方は敬うべき存在だと感じます。

あの試合の始球式が野茂さんだったことから、パイオニアとしての一步の重み、そしてその功績を忘れない敬意こそが、未来を築く礎になると強く感じた次第です。

◆発行者コラム◆

今回もまた最後までお読みいただきまして、どうもありがとうございます！さて、先日、ふるさと納税で千葉の九十九里から冷凍のハマグリが2kg届きました。鍋にしたり、焼きにしたり美味しくいただいたのですが、かさばるため冷凍庫がすぐいっぱい。そこで、冷凍庫を別にもう1台購入しようかと妻に相談したところ、即却下されました。「買ったところで入れるものが増えて、またすぐいっぱいになるから」とのこと。ごもっともだと思い、新たな冷凍庫の購入は諦めました。吉田竹史

■吉田通心を今後ご希望されない方は、大変お手数ですが025-372-1138までご連絡をお願いいたします。■

【発行者プロフィール】

名前：吉田 竹史（よしだ たけし）
生年月日：昭和40年8月21日（O型）
出身地：新潟県白根市（現・新潟市南区）
経歴：都内の学校を卒業後、証券会社（水戸 & ニューヨーク）の4年間の勤務を経て吉運堂へ。

趣味：上手くないゴルフ、強くない将棋
（NHKの将棋対局を見ることは好きです）
家族構成：妻、娘、息子



吉運堂



吉田 竹史